

脳卒中、脊髄損傷などの後遺症で 日常生活にお困りの方へ

筋肉がつっぱり、動きにくいことはありませんか？

例えば日常生活の中で、下記のようなことで困っていませんか？

- ▶ 歩行・着替えなどが行えない・行いにくい。
- ▶ 食事が思うようにできない。
- ▶ よく眠れない。
- ▶ 体にしめつけ感や痛みがある。
- ▶ 思うようにリハビリテーションが行えない。
- ▶ つきっきりの介護が必要である。



それは『痙縮（けいしゆく）』という症状かもしれません。

当院の脳神経外科では「痙縮」に対する手術療法（機能外科手術といいます）も実施しております。

これらの症状でお悩みの方、治療についてご興味のある方は、
当院を受診ください。

● 痙縮が起こる代表的な疾患

脊髄損傷／脳卒中／脳性麻痺／痙性対麻痺／脊髄小脳変性症／
多発性硬化症／脳損傷／低酸素脳症／急性脳症

『痙縮』の治療について

痙縮をやわらげる治療法には、リハビリテーション、飲み薬、外科的治療法（手術）のほか、最近では細菌の毒素を用いたブロック療法や痙縮の原因となっている脊髄周辺に直接お薬を注入する治療（バクロフェン髄注療法）ができるようになりました。

患者さんの意向や健康状態、痙縮の程度などを考慮してそれぞれの患者さんにあった治療法が選択できます。

済生会和歌山病院 脳神経外科

筋肉がつっぱり、動きにくいことはありませんか？

例えば日常生活の中で、下記のようなことで困っていませんか？

それは『痙縮（けいしゆく）』という症状かもしれません。

- ▶ 歩行・着替えなどが行えない・行いにくい。
- ▶ 食事が思うようにできない。
- ▶ よく眠れない。
- ▶ 体にしめつけ感や痛みがある。
- ▶ 思うようにリハビリテーションが行えない。
- ▶ つきっきりの介護が必要である。



● 痙縮が起こる代表的な疾患

脊髄損傷／脳卒中／脳性麻痺／痙性対麻痺／脊髄小脳変性症／
多発性硬化症／脳損傷／低酸素脳症／急性脳症

当院では**バクロフェン髄注療法（ITB療法）**
を実施しております。

『痙縮』の治療について

痙縮をやわらげる治療法には、リハビリテーション、飲み薬、外科的治療法（手術）のほか、最近では細菌の毒素を用いたブロック療法や痙縮の原因となっている脊髄周辺に直接お薬を注入する治療（ITB療法）ができるようになりました。ITB療法とは、バクロフェンというお薬を作用部位である脊髄の周囲へ直接投与することにより、痙縮をやわらげる治療です。

この治療では、患者さんの状態に応じてお薬の量を増減することにより、痙縮をコントロールすることができます。痙縮をやわらげることで、日常生活の活動の幅を広げたり、生活を豊かにすることを目的としています。

治療方法の詳細や適応については、お気軽にご相談ください。

